

第13号【続編】(2009.07.30 配信)

前回の横浜の話に、読者の方々から質問とリクエストを頂きました。一つは、宿場だった「神奈川」と寒村だった「横浜村」の位置関係、もう一つは、お休どころ、特に「食べどころ」についてです。

1. まず、宿場の「神奈川」から。

横浜市は神奈川県の大府であり、県名の由来は宿場名として知れ渡っていた「神奈川」。しかも同市の17区中に、昭和2年(1927)以来「神奈川区」があり、元の宿場町一帯が含まれています。県名、区名、もともとなった地名・町名と幾つもの「神奈川」があって、分かりにくいのが当然かもしれません。

ご存じの「東海道五十三次」は、江戸の日本橋を起点とし、品川を経て六郷川(多摩川の下流部分の通称)を渡ると川崎宿があり、次の宿場が「神奈川」でした。その先隣りの宿場は「程ヶ谷(保土ヶ谷)」。さらに戸塚、藤沢、平塚と続き、小田原、箱根に通じます。今の東海道本線は、その順路をもとに走っています。

話を宿場の「神奈川」に戻し、今日のどの辺が宿場町だったか？

ネットによると、横浜市神奈川区の「神奈川本町」付近とあり、電車の駅でいうとJR京浜東北線の「東神奈川」の南側、平行して走る京浜急行電鉄の「神奈川」駅にも近い。海側には「神奈川湊」が鎌倉時代からあり、景勝地でもあったそうで、江戸幕府が、新しい開港地として候補に選んだ根拠は分かるように思われます。

神奈川区内に住む友人が、「神奈川宿」のセミナーを何度も受講し、旧跡や関連先を歩きたいと言ってくれたので近く同道する予定です。追って「続き・その2」としてレポートできれば幸いです。

一方の寒村「横浜村」は、今のどの辺りだったか？

往年著名だった「神奈川」と違い、当時の地図も絵図も容易に見当たらず、手元のどの資料にも貧しい農漁村だったとしか記されていません。もう少々詳しく調べてみようと考えています。「続き・その2」にその結果もお知らせできればよいのですが...

2. 次は「食べどころ」。ガイドブックやネットにないお勧めの老舗などあればとのリクエストです。それらを記す前に、留意していただきたいこと2点を記しておきます。

その1。前回は、港中心でした。代表的な「みなとみらい地区」は東京からのアクセスも良く、大磯橋には行けても、その他の地域(中華街や伊勢佐木町など)に行くには時間的にかなり無理があります。その辺を心得て、行く先と時間割をたててほしいこと。

その2。山下公園、氷川丸は代表的なシ フロントで大磯橋周辺は指呼の間ですが、逆に「みなとみらい地区」とはやや隔絶感があります。むしろ元町・中華街との関連が適当と考えられます。(前回は触れなかった中華街の話も付け加えねばなりません)。

そこで、関内・馬車道・伊勢佐木町を合わせ、3通りの「お休どころ」プランを試みることにします。すべて私の体験の集約ですので、例示として受け止めてください。

(1)「みなとみらい地区」は桜木町から、また東急東横線の延長「みなとみらい線」も通じる、アクセス抜群、今なお発展中の広いエリアです。横浜というと、今はこの地域だと思っている若者が大多数ではないかと思われるほど。イベント会場、大観覧車、赤レンガ街、横浜美術館まで揃い、レストランは随所にあります。遊びも食事もお買い物もご自由に。

ただし、折角シーフロントに来たのだから、大棧橋にはぜひ行ってみてとアピールし、また、ホテルでの食事なら、海の間際の半月形・グランド・インタコンチネンタルがお勧め。特に1階の横手からブイでつながるフローティング・レストラン(開店を確認のこと。天候次第)で夕食など、海の風景を目の前に快適な会食を。

(2) 東横線から直通で、あるいはJR横浜駅で「みなとみらい線」に乗り換え、終点の「元町・中華街」に。元町は以前からおしゃれなショッピング通りで女性には人気があります。私は若い時代に「Vegetables」の屋号と看板をかけた八百屋の店頭で、見たことも食べたこともない食材づくしに興味を覚え、後年の海外在勤の参考になりました。今は世界中の食品揃いのスーパー「ユニオン」に入ると、思い出の食材、南特有のフルーツがところ狭しと並んでいます。元町背後の山手めぐりも、多様な“異人館”が多く面白い散策です。

昼は中華街へ。新旧の料理店や屋台まで“参戦”して激戦中の賑わいですが、目標を定めていくことが大事。思いつきや呼び込みに応じては、楽しく賞味できる中華料理に出会うのは難しい。四大料理(広東、北京、上海、四川)それぞれに独特の料理と味と旨さがあります。店名記載の詳しい地図は必携。広東なら「聘珍楼」が断トツ。ただし時間を見計って、早めに行くか、逆に時間を遅らせては…。1時間前後待たされることもあり得ますから。北京なら、断然「華正楼別館」(本館は敬遠)、四川は「重慶飯店別館」。これらは一例です。他にも有名店は多々ありますが、思い出に残る料理はやはり著名な老舗にかないません。

注文の仕方も大事です。メニューはどこも分厚いので、ウエイトレスに評判・人気料理を尋ねるもよし、会食ならば一人一人これをぜひと望む品名を選び、内容や品数を質したり確認するのも結構。大勢でなければ大皿でなく中皿を頼む等々。中華料理を美味しく歓談しながら味わうには、相応の知識と経験(一種の慣れ)も必要です。

食後は、間近のマリントワーや山下公園、氷川丸などへ。氷川丸に乗ってみようと前回記しましたが、船内に飲食店はありません。お休どころは大棧橋とその周辺のコーヒー店をご利用ください。

(3) JRと「みなとみらい線」の他に市営地下鉄もほぼ平行に走っています。「関内」はJRと地下鉄が、「馬車道」「日本大通り」は「みなとみらい線」が通ります。「日本大通り」駅から大棧橋 開港広場 レンガ造りの「横浜開港記念会館」(開港 50 周年記念・大正 6 年建造)を経て、雰囲気の良い馬車道を歩き、関内駅を抜けると伊勢佐木町に入る。この一帯が横浜のノスタルジアを感じる中心街です。馬車道には県立歴史博物館があり、街道のガス灯や歩道にも注目を。

お休どころは、ステーキの十番館(「スエヒロ」から名称が変わった? 外側のメニューと見本を確認の上)や和食店も幾つか。伊勢佐木町の書店(有隣堂)ビルは書物の並べ方が見易く入る価値があります。筋向かいの小道にある老舗の庶民的な小料理屋「とらや」の刺身御飯は抜群。テンプラもいい。友人たちとの待ち合わせ昼食はいつもこの店です。

(7月22日記。国際サブロー)